

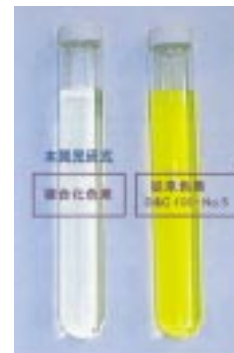
耐溶出性複合有機色素顔料の開発研究

企業 / 大東化成工業（株）

研究者 / 久保 靖（静岡大学工学部物質工学科教授）

従来、有機色素および顔料は一般的に、水あるいは油性の溶媒に溶出するため、メイクアップ化粧品（特に口紅、マニキュア）として使用された場合、皮膚あるいは爪への色素の染着性、あるいは、にじみだし等が問題となっている。

また近年、水性化粧料の要望が、人体への安全性の要求から高まっているが、溶出性の有機色素を多量に配合した場合、有機色素顔料が水中に溶け出すために、望まれる水性化粧料ができない。このため、本開発研究では、層状金属複水酸化物の層間に陽性の色素イオンを固定化することにより、有機色素と無機水酸化物の複合体を形成させ、水あるいは油性の溶媒に溶出しにくい複合化有機色素顔料を精製することに成功した。



D&C イエロー
No.5の水への溶出性
を示したもので、
水に分散後そのろ液
を比較したもの